デジタルアーカイブ研究と新たな展開

後藤　忠彦

１．～2000年　デジタル化・記録

①各種資料の収集、記録、保管

②日本語のデジタル記録と管理…文書、音声、映像等の収集・データベース化

　メタデータ、シソーラス、リンク（時間、時代、地理、人物等）

　③デジタルアーカイブ

（デジタルアーカイブ：月尾嘉男先生、デジタルアーカイブ振興協議会1996年設立）

２．2000年～2010年　収集・デジタル化・選定・保管（流通）

　①地域文化資料の収集…撮影・記録・選定・管理の方法…（住民参加へ）

　　例１．長良川の水文化　広域：水源～河口の自然・文化・生活

　　例２．沖縄の地域文化～北海道の記録・保管

　②人物（オーラルヒストリー）

　　例．木田宏オーラルヒストリー（昭和58年～平成7年を要した、リンク情報）

　③デジタルアーカイブの人材育成（デジタルアーキビスト）…特色のある大学教育

３．2010年～2020年　利活用（流通）とフィードバック

　①文字、映像、音声等のデジタルコンテンツの提示・提供とフィードバック

　　例「沖縄おぅらい」１年間１万名以上利用（2011年～）

　②課題の解決、知的創造への活用とフィードバック（回す）

　　例「1967年～現在の資料を使い（デジタル化）」、”沖縄の学力向上”に役立てる

（分析）→提供計画→実施→評価→改善で回す（サイクル）

　③保管（フィードバック）を配慮したメタデータの再検討

メモ

　ブランディング事業

　　〇収集・保管　　　飛騨の匠、白山文化、（全国の関係資料）

　　〇活用例　　　　　中部国際空港に「飛騨の匠」のプレゼンと高山の机、椅子の展示

　　　（フィードバックは今後の課題）

　　～発展